

おか  
岡ゆき お  
幸 男けん と く ら ぶ  
県都クラブ

## 津市の幼児教育の将来について

**問** 津市立幼稚園は、私立幼稚園に比べ、園の数も多く、職員も約1.5倍の人数、予算も格段の差がある。また、利用者の負担額も私立の4分の1以下であるのに、市立幼稚園のほとんどが定員の半分に満たない。津市の幼児教育の将来を見据え、利用者のニーズに応えていない市立幼稚園は、この際認定こども園へ移行するべきではないか。

**答** 公立幼稚園の予算は人件費や運営費を含め約14億9,200万円で、このうち30数%が国から交付金として入ってきている。一方、私立幼稚園への予算は約1億1,900万円で、市の就園奨励費補助金などの予算は計上しているが、県からは私学助成金も出ているため、単純に比較するのは難しい。

定員に関しては、学級編成に関する法律があるが、幼児教育には当てはまらないので、幼児教育に必要な集団の規模について、教育の枠組みにとらわれず、市民の皆さんや現場の教員、保護者の意見も総合的に含めて検討していく。認定こども園については、施設も含め、幼稚園の再編を進めながら、幼保連携型の認定こども園に向けた検討・取り組みを進めていく。

## ●その他の質疑・質問●

○一身田小学校校庭の芝生化について

・地元で自治会を中心に支援組織ができたが、対応は

・教育委員会としてのスタンスおよび今後の展望は

○市道浜田長岡線の一身田地区の道路拡幅工事の進捗状況と今後の整備スケジュールは

○新斎場いつくしみの杜の運用について など



▲道路拡幅工事の進捗を待つ一身田地区の市道浜田長岡線

か とう  
加藤み え こ  
美江子こうめいとう き いん だん  
公明党議員団

## 「子ども・子育て支援」の根幹を成すものは

**問** 子育てしやすい環境を整えるため、子育て支援センターの増設、保育所環境の整備などが必要である。しかし、生活に困窮している家庭、誰にも相談できずにいる家庭、地域と関わりが持てない家庭の子育てが孤立している現状をもっと把握し、行政が積極的に支援する施策を考えるべきであると思うが、いかがか。

**答** 子ども・子育て支援に関して行政ができることは相当幅広い。ため、諸政策を総動員して子ども・子育てを支援し、子どもを育てやすい、子どもが子どもとして育っていきやすいようなサポートや支援をさまざまな角度から行っていく。そのためには、それぞれの家庭の立場に寄り添っていくことが大事であり、1つはそれを教育の場面で、できる限りきめ細かくやることが重要だと考えている。

加えて、生活にやや困窮している方々にもきめ細かく支援していくことが必要である。

この4月から、生活保護を受けるまではいかないが生活に困っている人のための相談支援制度ができるので、その中で、そういった方々への対応を適切に行っていく。

## ●その他の質疑・質問●

○施政方針より

・認知症総合支援事業における認知症初期集中支援チームの設置および生活支援体制整備事業における生活支援コーディネーターの配置について

○教育方針より

・人権教育の在り方および青少年健全育成の推進について

・市長主宰の総合教育会議での教育委員会の立場は など



▲子育て支援センターの増設等で真の支援はできるのか